

## 幼児教育・保育の質に関する考え方について

### 1 幼児教育・保育に係る取組の方向性

本市では、目指すべき人間像として、「心身ともにたくましく、思いやりのある人」を掲げており、乳幼児期は、その土台を作る重要な時期であると考えています。

また、乳幼児期においては、遊びや生活の中で、安心して自己を発揮しながら周囲の人や環境と関わることで、「言葉」や「思考力」、「判断力」などの認知的な力を育むだけでなく、「自己肯定感」、「粘り強さ」、「思いやり」、「社会性」など内面の力を育てることが大切です。こうした力は、いわゆる「非認知能力」とも呼ばれ、生きる力の基礎となる重要なものとされています。こうしたことから、一人一人の子どもに応じてこのような力を育むことができる取組が、質の高い幼児教育・保育につながるものであると考えます。

このような考え方の下、広島市乳幼児教育保育支援センター（以下、「センター」という）では、全ての子どもに質の高い幼児教育・保育を提供する取組を進めていきます。

### 2 幼児教育・保育の質を高めるための取組の視点

幼児教育・保育の質の向上に向けては、様々なアプローチが考えられますが、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた幼児教育・保育を基本とします。

幼児教育・保育は、子どもを取り巻く様々な環境を通して行われるものであり、幼稚園教諭・保育士等、家庭・地域、地方公共団体等が、全ての子どもの健全な心身の発達に向けた取組を行うなど、たゆまぬ努力によって、その質が高められていくものです。

こうしたことを踏まえ、センターでは、幼児教育・保育の質の向上に向けた取組に当たっての3つの視点を整理しました。また、これらの視点を基にした取組は、1つの視点だけに基いて行うものではなく、3つの視点が相互に関連することを踏まえた上で行うことが、幼児教育・保育の質を高めていくものであると考えます。

